

博士学位申請論文執筆プロセス【休学中は該当しない】

①三年次在学中に学位申請論文を提出する場合

2016年4月1日

年次	月	進行の内容
第1年次	4月	「論文指導教員の決定」 ※履修登録時の「演習指導教員」の承認をもって代える
	1月	「学位論文執筆状況報告書」 (様式1) ①1月末に研究科長宛に提出 ②分量はA4判用紙で1枚程度
第2年次	随時	「学位論文執筆計画書(プロポーザル)」3部提出 表紙(様式2) ※ 内容は、① 論文の既執筆部分 ② 先行研究との関係から見た論文の価値・独自性に関する説明 ③ 既執筆部分が全体の構成の中でどのように位置づけられるかを説明した、論文全体の構成と目次 ④ ビブリオグラフィ から成り、分量はA4判用紙で20枚程度。 ※ 研究科規則で、プロポーザルの審査期間中は在学するものと定められているので注意すること。プロポーザルの審査の期間は、原則として提出後2ヶ月以内とする。 ※ 毎月月末までに提出されたプロポーザルは、その翌月に審査開始される予定である。ただし、8・9月に審査の開始はないため、7月末にプロポーザルを提出した場合は、10月に審査開始となる。同様の理由から、後期からの休学を考えている学生は、5月末までに提出すること。 ※ 合格者は博士課程単位修得者と認められ、「合格年度末日」の修了見込証明書の発行を申請することができる。 ※ プロポーザルは第3年次にも随時提出可能。ただし、学位申請論文を提出する場合、論文題目提出以前に、プロポーザルの審査に合格していなければならない。
	1月	「学位論文執筆状況報告書」 (様式1) ※同上、研究科長宛に毎年提出(ただしプロポーザル合格後は提出不要)
第3年次		「論文題目提出」論文提出の4週間前 (様式3) 「学位申請論文」3部提出 (事務室で配布する「審査手続き」参照) ① 10月末日提出の場合、11月に審査委員会発足、4ヶ月以内に論文審査を行う。論文審査合格者については、論文審査終了以降1ヶ月以内に最終試験(公開口述試問)を実施する。審査を経て合格後、翌年3月下旬に学位授与。 ② 3年次在籍中の2月末日までに提出することも可能だが、最終試験に合格した場合に学位が授与されるのは、次年度7月になる。

②博士後期課程在学年数が三年を超えた学生が学位申請論文を提出する場合

在学年数が3年を超えた者は、10月末日提出、2月末日提出に加えて、6月末日提出ができる。その場合は11月修了となる。